

家庭菜園

Q & A

問題解決!



農産部 担い手課 営農主幹  
検校 哲也

**Q1** 連作障害、よく聞きますが、どうすればいいか教えてください

**A1** トマトやナス、スイカなどの夏野菜が終わりました。うまく育ちましたか。

ちゃんと世話していたはずなのに、初めはうまくいっていたのに、病気なのか、だんだんと育ちが悪くなって、実りが良くなかったりしませんでしたか。これは、連作障害の可能性があります。同じ種類(ナス科のトマトやジャガイモ、アブラナ科のキャベツやダイコン)を同じ畝(つね)で続けて作ると、生育不良となり病気も発生します。

いくつかの原因が組み合わさって障害となります。

●野菜が同じ肥料成分(栄養)をとることで、土壌中の栄養に偏りができる。

野菜にはそれぞれ大好きな栄養があります。カリが大好きだ

たり、苦土が好きだったり。毎年同じように育てていると、その野菜が食べ残した栄養が土にたまっていきます。そして、嫌いな栄養が多くなり、バランスの悪い土になってしまいます。

そこにトウモロコシを植える

と、畑に残された栄養を吸い取ってくれて、土をリセットしてくれます。

●初めは少しいった病原菌が毎年畑にたまって、やがて病気が発生する。

キャベツの菌核病が代表例ですが、連作しないこと、収穫した残りのゴミは畑の外へ処分します。

●同じ野菜を植え続けることによつて自己中毒を起こす。

根の周りには、その野菜を好む微生物が多く生育します。この微生物は他の植物が生育するのを邪魔する働きをします。ところが、連作していると自分の生育を邪魔する中毒症状を起

してしまいます。

●連続して作付けたことで土壌の栄養が不足する。

もっとも単純な原因です。初めに作った野菜は良くできる、と言います。新しい土にはたっぷり栄養があります。でも、収穫後は栄養不足になります。一作終わったら堆肥を入れます。作った野菜が吸った分の栄養を補給



図1

畑は使えば使うほど消耗し、栄養や土壌微生物に偏りができます。有機物を補給しましょう。

連作障害対策には、畑を計画的にローテーションする輪作が必須です(図1参照)。そのためには、どこに何を作ったか覚えていないといけません。大きめの白い紙(JAカレンダーの裏など)に畑の畝の図を描いて、作った野菜を記録しておきましょう。トマト、ナス、ピーマン、枝豆、ジャガイモなどは、4~5年あけますから、5年前の記録が要りますよ。

計画を立てなくても、連作可能な野菜があります。トウモロコシ、タマネギ、カボチャ、サツマイモ、これらは気にせずいつでもどこでも作付けできます。

また、連作しても育つ抵抗性台木を使った苗もあります。連作障害対策に限らず、バランスの良い土壌が生育を良くします。土づくりに励みましょう。

**Q2** 種まきでかぶせる土はどれくらいですか。

**A2** 種をまいたあと、上から少し土をかけますよね。土で覆(おお)うことを覆土(ふくど)と言います。どのくら

い覆土するかは、植物の性質によつて異なります。種が大きい場合は厚めに、小さい場合は薄めに覆土するのが基本です。通常、覆土は種の厚さの2~3倍です。

覆土の量が少なすぎると、乾いてしまったり、発芽後に株元がぐらついて苗が育ちにくかったりします。覆土の量が多すぎると、土の中から芽が出にくくなってしまいます。

種の大きさに限らず、出芽に光を欲しがると好光性種子の場合、薄く覆土します。ニンジン、コマツナ、レタス、カブなど好光性種子は、厚く覆土すると発芽しにくくなるので要注意です。



オンライン農業塾  
はじめました!  
▼動画はコチラ▼